ショートコース実行委員長ご挨拶

謹啓

日本薬物動態学会第 42 回年会（Asia Pacific ISSX Meeting との合同年会）の初日となる 2027 年 11 月 15 日（月）に、第 19 回ショートコース（SC）をソニックシティ（さいたま市）にて開催いたします。開催にあたりましては、年会長の東京薬科大学・井上勝央先生とも連携を深めながら、企画・運営を進めております。

近年、創薬モダリティの多様化に伴い、複雑な体内動態を示す候補分子が増え、従来手法による評価・予測の限界が顕在化しています。動物モデルからヒトへの外挿の難しさや規制環境の変化も、薬物動態研究の変革を促しています。一方、AI・データサイエンス、NAMs（New Approach Methodologies）、M&S（Modeling & Simulation）の進展により、既存の枠組みにとらわれない新たな評価・予測手法の開発が進み、創薬の現場への実装も始まりつつあります。

このような背景を踏まえ、第 19 回 SC のテーマを「薬物動態評価・予測の革新が拓く次世代創薬」としました。国際的コンソーシアムである International Consortium for Innovation and Quality in Pharmaceutical Development（IQ Consortium）との共催のもと、創薬データサイエンス／DX の現状と展望、NAMs に関する最前線の取り組み、M&S を活用した複雑なヒト体内動態予測などを取り上げる予定です。先端技術を創薬にどう生かし、従来手法では解決が難しかった課題をいかに克服するか、その道筋を探る機会としたいと考えております。

創薬を取り巻くこうした変化を前向きに捉え、薬物動態研究者が新たな技術を取り入れることで次世代創薬にどのような価値をもたらし得るのか、実践事例を共有しながら、参加者の皆様と共に考えたいと思います。モダリティや専門領域の枠を超えた議論を通じて、新たな気づきや研究の可能性が広がる会となるよう、実行委員一同努めてまいります。

お一人でも多くの方のご参加を、心よりお待ちしております。

謹白

2026 年 11 月吉日

日本薬物動態学会第 19 回ショートコース
実行委員長　小平　浩史
（協和キリン株式会社　研究本部　トランスレーショナルリサーチ研究所）